

金の犬こ・仁多郡奥出雲町下阿井

令和2年8月19日掲載予定

収録・解説・酒井 董美^{ただよし} イラスト・福本 隆男

直接、出雲かんべの里「民話の部屋」HPからお聴きになりたい方は
https://kanbenosato.com/minwa/kancho_201011.html
 で検索なさってください。

金の犬こ・仁多郡奥出雲町下阿井

語り手 井上掬^{とく}さん（明治19年生まれ）
 収録・昭和46年5月30日

あらすじ

長者に縁の遠い娘がおり、占い師に占つてもらうと貧乏なところに縁があると出る。長者は怒つて娘を追い出す。娘は貧乏な吾一の家に行き嫁になる。吾一歳暮に榎で作った杵を持つて長者宅へはゆくが追い返されたので、橋から川へ投げ入れると杵は竜宮へ着く。正月三日に竜宮から迎えが来て、吾一は竜宮で歓迎される。土産に丁銀を朝一枚食べさせると大判を出す金の犬こをもらう。しかし欲張つて二枚食べさせると死ぬという注意を受ける。

吾一の家ではそれで金持ちになる。長者が借りに来て三日目に二枚丁銀を犬に与えたので犬は死ぬ。吾一が死骸を持ち帰り榎の下に埋め、翌日見ると枝に金銀大判小判がなつていく。吾一は枝から白と杵を作り米を搗くと、臼があふれるほど米でいっぱいになる。長者が借りて帰り搗くと米は散つてしまうので立腹して焼いてしまう。

吾一は焼いた後の灰を持ち帰り、殿様のお留め山で木を伐つていると殿様が通りかかり、「何者か」と聞くので「日本一の花咲爺」と答えると、「花を咲かせよ」と言われたので灰をまくと全山花になり褒美をもらう。

それを聞いた長者がまねると灰が殿様の目に入ったので、怒つた殿様は家来に命じて長者

を殺させた。
 い。こんなことだから人まねをするものではない。

解説

なかなかスケールの大きな話である。前半は「浦島太郎」後半は「花咲爺」を合わせたような話である。

関敬吾『日本昔話大成』で見ると全国で同類が97話存在していることが分かる。そのうち中国地方では12話（島根1、鳥取3、岡山3、広島5）収録されている。

ところで、吾一は竜宮で呪宝の金の犬こを得るが、竜宮はどういう意味を持つかと言えば、こは祖霊界なのである。先祖の御霊が住み、時々現世に現れて、子孫たちが幸せに暮らしているか検証しにやつてくるのである。つまり、浦島太郎が出かけた竜宮城も同様である。

吾一が米を搗くときの言葉「千石万石数知れず」は、新年11日に農家が行う年中行事「田打ち正月」で唱える言葉の後半部である。

～国土の広き荒野を田となして

鎌のみ矛は露の玉米

一鎌に千石 二鎌に万石

千石 万石 数知れず

また榎の枝に金があるが、浜田市三隅町東大谷で聞いた祝い餅を搗くときの餅搗き歌に、

～これのお背戸にや二股榎
 榎の実ならいで金がる

この昔話の基盤には年中行事や民謡などが、そつと敷き詰められている。昔話のその深さが垣間見られるのである。

（元島根大学法文学部教授）

~

